



日刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

92.12.14 No. 3708

革マル西労 96時間ストの欺瞞

動乗勤を口実に

セクト的組織防衛

革マル・JR総連傘下のJR西労が、動乗勤改善に反対すると称して、「一月八日以降九六時間スト」に突入した。労使双方に「話し合い解決」の意志は全く

なく、打ち買われることが最初から分かっているストライキである。われわれは、このストライキの本質を正しく認識しなければならぬ。

職場を度外視した

組織争い

第一に、このストは、国鉄労働者の大量首切り攻撃としてあった分割・民営化の犬となることを通してセクト的生き残りを図ったJR総連・革マルが、階級情勢の激化のなかで資本家から切り捨てられることに対して、セクト的に純化することを通して生き残ろうとして策動したものである。

国鉄の利権をむさぼり、国鉄・総評労働運動を解体するためには何でも利用し、財界・自民党政府と、資本の軍門に下ったJR総連・革マルの、職場や労働条件の問題を度外視した争闘戦の本質である。この「九六時間スト」の本質である。

労働条件改善

とはならない

第二に、従って、このストライキで、職場が切望している労働条件改善などは一切ありえないことが、最初から分かっているものである。

そもそも、今日の国鉄・JR労働者の惨状は、国鉄分割・民営化攻撃とJR総連・革マルの屈服・階級的裏切りを導水路として結果したものであり、分割・民営化をヨシとするところからは絶対に改

善されるはずがないものである。

「国鉄労働者の働きが悪いから赤字になった」、一分割・民営化はいいことだとするJR連合とJR総連の御用組合同士の組織争いとして発生したこのストライキに、労働条件の改善を期待すること自体がマンガなのである。

東はよくて西はダメ

のまやかし

JR総連・革マルは、「JR東日本の動乗勤はよいが西日本はだめだ」と主張している。

まさに、これは今世紀最大のナンセンスである。「新しい勤務制度になってよかったです」とは何もない。「(会社やJR総連・革マルが言った)『ゆとり』や『豊かさ』などはみんな嘘だった」。これが、JR東日本の職場の圧倒的な声である。

動乗勤改善を推進した

JR総連・革マル

東西を問わず、資本家が、動力車乗務員に対して「要員を増やさないと偽時短」を実施しようとするれば、「待ち合わせ時間」を労働時間から削り取る以外に手はないのであり、文言上の表現でごまかす

これは絶対に無理である。JR総連・革マルは、「労働時間Bをつけたことで乗務労働の特殊性は認められた」などと言っているが、この無理を押し通そうとしているが、当然のこととして、全ての国鉄・JR労働者に、その欺瞞性を見破られている。また、東日本で、動労千葉をはじめとする動労総連合が動乗勤改善阻止のストライキを闘ったときに、公然とスト破りをやったJR総連・革マルが、西日本でもJR連合にスト破りをやるなど叫んでも醜態なだけである。

JR西日本とJR貨物の動乗勤改善を阻止しよう

動労西日本は、一月二八日、金沢運転所で動乗勤改善阻止の第一波ストを闘い、全ての国鉄・JR労働者に闘いへの結果を呼びかけている。われわれは、JR東日本の動乗勤改善阻止へ向けて、組合所属を問わず全乗務員・全国鉄・JR労働者のの共感を勝ちとって、数波にわたるストライキを貫徹した地平に踏まえ、動労西日本の仲間を中心とする闘いを前進させ、JR貨物でも策動されている偽時短・勤務制度改善阻止へ向けて闘い抜いていこう！

当面するスケジュール

一月十六日 佐倉支部定期大会

一月十七日 館山支部定期大会

一月十八日 九〇・三小損賠公判

一月二十日 千葉地裁

組合事務所公判

千葉地裁

十一月十一日 動労千葉団結旗開き

労働者福祉センター

十三時から